

誰にもやさしい
まちづくり



岐阜県高山市

高山市は、^{だれ}「誰にもやさしいまちづくり」をすすめています。

高山市では、子どもやお年寄り、^{しょう}障がいのある人、外国人を^{ふく}含め、全ての市民が住みやすく、^{つづ}住み続けたいと思えるような「安全・安心・^{かいてき}快適なバリアフリーのまち」をめざしています。

このことは、「誰一人取り残さない」という持続可能でよりよい世界を目指すSDGs（エス・ディー・ジーズ）へとつながっています。

高山市を^{おとす}訪れる多くの人にとっても魅^み力^{りよくてき}的なまちとなるよう、「ユニバーサルデザイン」という考え方も取り入れて、少しでも多くの人が^す過ごしやすいよう、「誰にもやさしいまちづくり」をすすめています。



どうして誰にもやさしいまちが必要なの？

社会では、いろいろな人が暮らしています。子どもやお年寄り、身体や精神、発達などに障がいのある人、出身の国や地域が違う人、体の大きい人や小さい人……、今は元気で年を重ねると体に障がいを持ったり、妊娠したり、病気やけがをしたりすることもあります。みんながいろいろな^{こせい}個性や^{とくせい}特性を持っていることがあたり前なのです。

いろいろな個性や特性を持ったみんなが安全・安心・快適に生活できるまちが、「誰にもやさしいまち」であり、こうしたまちを実現することがとても大切です。

また、高山市は^{かんこうきゃく}観光客の多いまちです。市民が安全・安心・快適に暮らせるということは、外から訪れる人も快適に過ごしていただけるということです。

「誰にもやさしいまちづくり」は、観光客を^{むか}こころよく迎えるというおもてなしの心にもつながっています。

バリアフリーってどういうこと？

日常生活を送る上での「障壁」(＝バリア)を「取りのぞく」(＝フリー)という考え方です。バリアには道路や建物の段差など目に見えるものだけでなく、偏見など心のバリア、言葉や情報のバリアなど、さまざまなものがあります。

ユニバーサルデザインってどういうこと？

障がいの有無、年齢、性別、国籍、人種などに関わらず、多様な人々が利用しやすいようにあらかじめ配慮する考え方です。施設や製品、情報や各種サービス、ふれあいや交流も含め、「全ての人が生活しやすいまちづくり」という意味で使われています。

自分の周りには どんなユニバーサルデザインがあるの？



●自動販売機

子どもや車いすの人が使いやすい位置にボタンやお金の投入口があります



●シャンプーのデコボコ

目を閉じて、視力が低くてもシャンプーとリンスが区別できるようにシャンプーの容器にデコボコがついています



●エレベーター

音声案内、手すり、低い位置にある操作ボタン、うしろを見るための鏡などがあります



●階段の2段手すり

使う人の背たけに応じて使えます

他にも、自分の周りにどんなユニバーサルデザインがあるか探してみよう。

高山市では、「誰にもやさしいまち」にするために、 どんなことをしているの？

…まちの中のバリアを取り除く 《目に見えるバリア①》

道路の改修

安全にまちを歩くことができるよう、歩道の段差をなくすなど、市内の道路で順番にバリアフリー化を進めています。

〈歩車共存型道路の整備〉



- ・路側帯が狭い
 - ・路側帯と駐車場の間に大きな側溝がある
- ※路側帯とは、歩道を作るほどの幅がない道路に線で分けした歩行ゾーンです

- ・側溝にふたをして路側帯を広くし、カラー舗装で車道と路側帯を分けた
- ・車にスピードを出させないため、車道のセンターラインをなくし幅を狭く見せた



- ・車道が広く歩道が狭い
- ・車道と歩道の段差が大きい

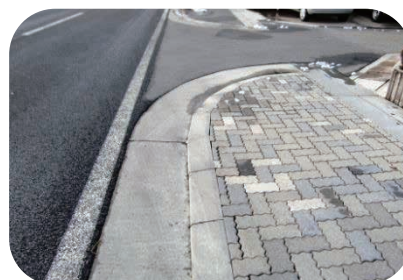
- ・歩道を広く車道を狭くした
- ・車道と歩道の段差をなくし、カラー舗装で分けした

改修後、こんな意見が・・・

段差が全くなってしまうと、
視覚障がい者はどこで止まればよい
かわからなくて困ることがあるよ



そこで



車いすで乗り越えられて、同時に視覚障がい者がどこで止まればよいかわかるように2 cm以下の段差を作る方法も取り入れました。

高山のまちには「冬は雪が降りつもる」という特徴があります。そのことも考慮^{こうりょ}して、道路のバリアフリー化を進めています。

〈グレーチングの改修^{かいしゅう}〉



改修前

- 網目^{あみめ}が大きく、車いすやベビーカーの車輪、ハイヒールのかかとが落ち込んでしまう



グレーチング



改修後

- 網目が1 cm 以下の細かいものに取り替えた

改修後、こんな意見が・・・



冬に家の周りの雪かきをした時、グレーチングの網目から雪を捨てられなくなって困るよ

そこで



グレーチングを簡単に持ち上げられるように取っ手を付けました。

〈融雪^{ゆうせつ}ブロックと「知らせるあかり」の整備〉



改修前



融雪ブロック



改修後

知らせるあかり

- 夜や雪が積もった時、横断歩道がどこにあるか、歩行者も運転者もわかりにくい
(特に視覚に障がいのある人は歩道と車道の境界がわかりにくい)
- 点字ブロックが雪で埋まってしまう

- LEDの明かりをつけて、どこが横断歩道かわかりやすくした
- 雪を溶かす機能がある点字ブロックを横断歩道前に取り付けた
- ★LED…発光ダイオードという、他の照明^{ていしやうひでんりよく}に比べ、低消費電力^{ていしょうひりき}、低発熱、長寿命^{ちやうじゆみよう}などの特徴がある照明

…まちの中のバリアを取り除く 《目に見えるバリア②》

みんなが利用できる公衆トイレの整備

まちを歩いていてトイレに行きたくなったことはありませんか？安心してまちにでかけることができるよう、車いすの人、目が見えない人、観光客、赤ちゃん連れ、お年寄りなど、みんなが利用できる公衆トイレ（多目的トイレ）の整備をすすめています。

多目的トイレの内部は、こんなふうになっています

車いす対応便器
（固定式の手すり
と可動式の手すりが
あります）

しょうじょう
小児用便器
（背の低い子ども
も使用できます）

洗面台の両側に手すり
があります

着替え台
（使用するとき引き出します）

オストメイト対応排泄物
（人工肛門・人工膀胱をつけた人が使
います）

ベビーチェア
（赤ちゃんと一緒に
入れます）

ユニバーサルシート
（大人・子どものおむ
つ交換ができます）



トイレはきれいでないと快適に使いません。

利用の多い公衆トイレでは、1日に2回の清掃（そうじ）をしています。

〈ポッポ公園の公衆トイレ〉

見に行ってみよう



（出入口のサイン）
・イラストで表示
・点字もある案内板を設置



…まちの中のバリアを取り除く 《目に見えないバリア》 情報を伝える工夫

まちの中を歩くと、どこに何があるかわからなくては思うようには行動できません。情報を得られないことも、目に見えないバリアになっているのです。特に、初めてそのまちに来た人や、言葉がわからない人は、情報を得られないために困ったり、不安になったりする場合も多くあります。

そこで、必要な情報をみんなに伝えられるような工夫をしています。

〈まちの中の観光案内板〉



←支柱型案内板
↓路面埋めこみ型案内板



支柱型案内板は4言語

- ・日本語
- ・英語
- ・中国語
- ・韓国語

路面埋めこみ型案内板は2言語

- ・日本語
- ・英語

〈歩行者の横断を補助する信号機〉



視覚に障がいがある人でも青信号
ということが音でわかるように
「信号が青になりました」と音声
で案内します

音響式歩行者誘導装置

〈高山市のホームページ〉

英語・中国語（繁体字）・中国語（簡体字）・フランス語・韓国語・ドイツ語・スペイン語・ポルトガル語・イタリア語・ロシア語・タイ語



- ・ホームページを、日本のバリアフリー基準（JIS規格）に合わせて作成しています
- ・色の変更や文字拡大機能があります
- ・観光のホームページは日本語を含めて12言語で作成しています

〈多言語のマップやパンフレットの作成〉



- まち歩きの観光マップを12言語で作っています
- 観光の見どころ、駐車場、公衆トイレのほか、車いすを貸し出している場所、銀行や郵便局、災害時の緊急避難場所などが紹介されています

↑日本語、英語、韓国語、中国語（簡体字）、中国語（繁体字）、フランス語、イタリア語、ドイツ語、スペイン語、タイ語、ヘブライ語、インドネシア語の12言語で作成している
まちなか散策マップ

〈公衆無線LANの整備〉



- 外国人が高山滞在中にスマートフォンなどで気軽にインターネットに接続して観光情報を調べたりできるよう、市内に無料の公衆無線LANを整備しています
- この無線LANに登録した人には、イベント情報や災害時の緊急避難情報を送ることができます

〈飛騨高山ユニバーサル観光ガイドブックの作成〉



- 訪れた人が安心して快適に滞在できるように、高山のさまざまな施設の情報を掲載しています
- 施設の利用時間や料金、授乳室やおむつ交換、ペットホテルの場所などが紹介されています

情報を伝える工夫のほか、人のところの中にもバリアを作らないことが大切です。高山には、観光のために多くの人を訪れます。その中には、外国人や障がいのある人もたくさんいます。どんな人にも気持ちよくすごしてもらうための工夫をしています。

〈おもてなしのための工夫〉



- 市内のホテルや旅館で働く人を中心に、障がいのある人や外国人のお客様にどんなおもてなしをしたらよいか、「おもてなし研修会」を開いて学びました

誰にもやさしいまちづくり条例^{じょうれい}

「誰にもやさしいまちづくり条例」とは、ユニバーサルデザインのまちづくりをすすめるために作られた、高山市のきまりです。「まちの中に今あるバリアを取りのぞくだけでなく、はじめからバリアのないまちをつくろう」という思いから生まれました。

・・・条例って何??

ち ほうこうきょうだんたい 高山市が、国の法律とは別に自主的に作る法規^{ほうき}（きまり）のこと。

●高山市の「誰にもやさしいまちづくり条例」の目的（条例第1条）

住む人、訪れる人、誰もが個人として尊重^{そんちやう}され、様々なふれあいや交流のなかで、安全に安心して快適に心ゆたかに過ごすことができるまちの実現^{じつげん}を図る^{はか}

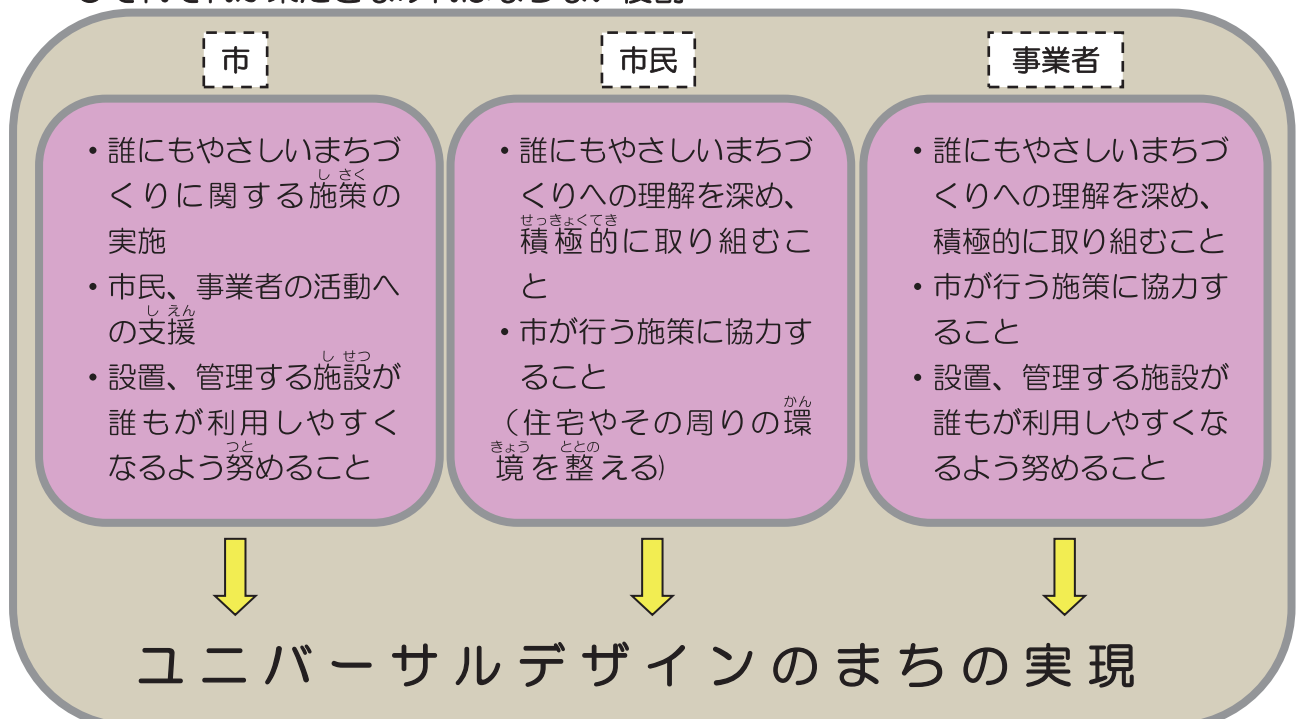


この目的を実現するためには、高山市のみんなで協力して取り組む必要があります。そのため、条例でそれぞれの役割が決められています。

「高山市のみんな」とは・・・

- ①市^し（市役所）
- ②市民^{しみん}（市に住んでいる人）
- ③事業者^{じぎやうしゃ}（市でさまざまな仕事を行う会社や人）

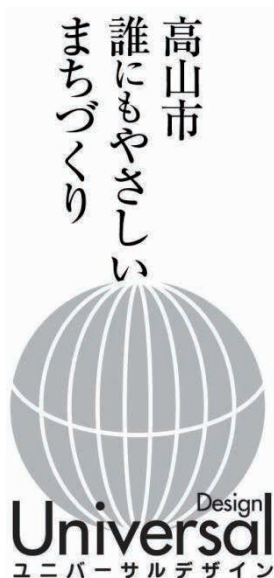
○それぞれが果たさなければならない役割



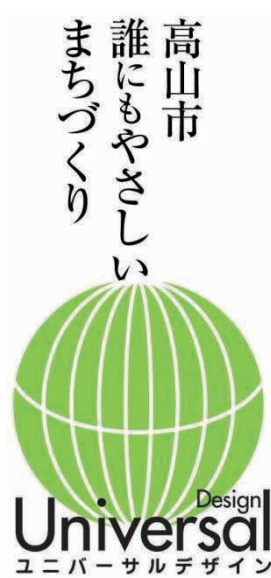
誰にもやさしいまちづくり認定マーク

ユニバーサルデザインに取り組むお店や会社には、下のような認定マークが貼られています。これも、「誰にもやさしいまちづくり条例」で決められています。

〈施設整備等のハード部門のマーク〉 〈サービス等のソフト部門のマーク〉



お年寄りや障がいのある人など、多くの人が、安全・安心・快適に利用できるよう、基準に合わせた建物や車を整備している事業者に認定証を交付します



お年寄りや障がいのある人など、多くの人が、安全・安心・快適に過ごせるようなサービスを提供している事業者に認定証を交付します

高山市が、みんなにとってやさしいまちになるためにはどんなことが大切？ 自分にできることは何？
考えてみてください。



誰にもやさしいまちにするために、大切なことはなに？

…それは、みんながすすめること。

高山市では、いろいろな取り組みをしています。でも、大切なのは、みんなのやさしさを^{はぐく}んで、心のバリアフリーをみんなですすめることです。次の5つのことを知ってください。

■歩み寄りの気持ち

個性や状況、文化などが違うことで、相手の考えが理解できなかったり、自分には都合が悪いことがあるかもしれません。おたがいに話しあい、歩み寄る気持ちをもってください。



■多様性の理解

人はひとりとして同じ人はいません。性別や年齢、障がい、生まれた国、ケガなどの一時的な変化もあります。自分とはちがう、いろいろな個性や特性があることを知ってください。

■みんなのため、自分のため

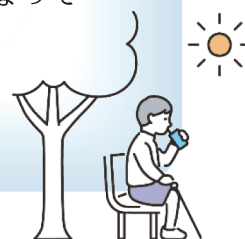
誰もが高齢になります。ケガや病気をすることもあります。ユニバーサルデザインの取り組みは他人事ではなく、自分に関わることだと思ってください。

■マナーの向上

通行の妨げとなる路上駐車や駐輪、看板の設置などがあるとせっかく通りやすい整備をしても意味がありません。通行する人の立場になってマナーを守ってください。

■人的サポート

施設の整備は必要ですが、それだけでは十分ではありません。行き届かないところは、心や行動など人と人との支えあいが必要です。困っている人には声をかけるなど、できることから始めてください。



誰にもやさしいまちづくりに正解やゴールはありません。ひとりでも多くの人が過ごしやすいまちにするために、みんなが考えて取り組むことが大切です。

※ 高山市では、「障害」を「障がい」とあらわしています。

— 発 行 —

令和6年7月

高山市総合政策部総合政策課